

平成24年度
第4回 温海地域審議会
会議録（概要）

期日：平成24年11月20日（火）

場所：鶴岡市温海庁舎 6階大会議室

平成24年度 第4回温海地域審議会 会議録

- 期 日 平成24年11月20日(火)午後1時30分～
- 場 所 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
- 出席委員 奥井厚委員、佐藤重夫委員、本間澄男委員、本間満委員、馬場充委員、橋本忠志委員、五十嵐孝昭委員、渡辺和一委員、伊藤貢委員、佐藤眞委員、五十嵐幸男委員、本間百子委員、榎本五郎治委員、佐藤眞紀子委員、斎藤徹委員、本間加知子委員 16名
- 欠席委員 柴田実委員、佐々木眞人委員、佐藤容介委員、五十嵐淳子委員 4名

○市側出席者

〈温海庁舎〉

支所長 伊藤彦市、総務企画課長 本間節子、総務企画課主幹 石塚みさ、市民福祉課長 富樫達男、産業課長 五十嵐勇一、観光商工主幹 粕谷一豊、総務部温海税務事務室長 丸山和男、建設部温海建設事務室長 庄司又兵衛、総務企画課課長補佐兼コミュニティ防災主査 三浦市樹、総務地域振興主査 五十嵐浩一、総務地域振興主査 鶴見美由紀、総務地域振興専門員 本間由縁

〈本 所〉

市民部次長兼コミュニティ推進課長 門崎秀夫、コミュニティ推進課主幹 佐藤正哉、コミュニティ推進課主査 清野健、企画調整課長 高坂信司、企画調整課主査 佐藤豊、企画調整課主任 長南徹、地域振興課地域振興専門員 三浦裕美、企画部地域振興課主任 前田哲佳

○次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 報 告
 - (1) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について
 - (2) 鶴岡市コミュニティ基本方針の策定について
4. 分散会
5. 閉 会

1. 開 会 (午後1時30分)

○**総務企画課長** 委員の皆様には何かとお忙しい中会議にご出席いただき誠にありがとうございます。ただいまより平成24年度第4回温海地域審議会を開会いたします。最初に委員の出席状況でございますが、当審議会委員の人数は20名であり、本日出席が16名で過半数を超えておりますので、「地域審議会の設置に関する協議書」第7条に定めております開会要件を満たしていることをご報告申し上げます。

2. あいさつ

○**奥井厚会長** 皆様大変ご苦勞様です。足下の悪い中ご出席いただきましてありがとうございます。今年も残すところ1ヶ月余りということになりました。1年も早いものだなと感じております。11月に入ってから天候がすこぶる悪くて、一部の集落では除雪も入ったという話も聞いております。これから冬本番に入るわけですが、皆さん様々な仕事の面なり、地域の面で苦勞しながら頑張っているのではないかと思っています。今日で4回目の審議会ということで皆さんから温海の将来をどうすればよいかということで活発なご意見をいただきたいと思えます。前回の分散会でも様々な意見が出ておりますので今日肉付けをしながら進めていくということになります。その前に本所の方から総合計画に関する意見、それからコミュニティ検討委員会の内容についても皆さんに中間でありますけれども報告しながらご意見をいただくということで時間を前段設けておるようですので活発な意見をいただくようお願いしまして簡単ですけれども開会のあいさつに代えさせていただきます。

3. 報告

(1) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について

○**奥井厚会長** それでは報告ということで、(1)の鶴岡総合計画実施計画の策定について、事務局より説明をお願いします。

— 資料説明：鶴岡市総合計画実施計画の策定について—

説明者：企画調整課佐藤豊主査

○**奥井厚会長** ただいま事務局から平成25年度から27年度に向けた鶴岡市総合計画実施計画の策定についてご説明がありましたし、庄内南部の定住自立圏構想の推進と合わせて説明がありました。皆さんから何でも結構ですのでご意見をいただきたいと思えますのでよろしくお願いします。

○**五十嵐幸男委員** 特に興味を持っているのは定住自立圏構想なのです。定住自立というと素人考えですが、重要なのは若者の働く場所の確保が重要だと思います。その辺で具体的にこれからの就労支援というか若者の働く場所の確保とか、今の経済状況から見れば、工場の閉鎖とかあるいは人員整理とかいろいろな経済環境の悪いところばかりがニュースに出てきておりま

すので、何かそういう時代に向かって夢のある計画ができれば、という感じがして説明を聞いていたのですが、この定住自立圏構想でどんな計画がされているのか聞かせていただければありがたいと思います。

○**奥井厚会長** 今五十嵐委員からご意見がありました。課長から説明願います。

○**高坂企画調整課長** ご意見ありました定住自立圏の関係での雇用の確保、創出という観点でのご意見ということで承ったところですが、この定住自立圏につきましては説明にありましてとおり、鶴岡市と三川町、庄内町との関係の中で取組みを進めていくということもございまして、資料の3ページにありますような具体的な連携の取組みというところをただいまは定めているというところがございます。雇用創出の関係でいきますと産業振興の中での圏域の産業人材の育成ですとか、雇用就業支援対策の推進等々このあたりのところがそれに該当するものかと思えますけれども、大きい政策の方向性の中で個々の取組みを位置付けているというよりも、こちらの定住自立圏につきましては1市2町の間で連携して取組みが進められるものはどういうものかと、そういう中で位置付けているところが強いかと思います。鶴岡市としての雇用の確保、創出ということについては総合計画実施計画の中で、ルネサンス宣言に基づく創造文化都市の取組みをはじめとする様々な取組みの中にそういった要素が含まれていると思えます。具体的に1次産業の関係では農業者あるいは水産業者等の就業、新規就農に関する施策という国の支援もある中で取組みを進めていくところがございますけれども、そういった新規就農者を始めとしてやはりこの地域、農林水産業の振興が非常に重要なことだと思いますので、そのあたりに力を入れていくというところがあるかと思えます。それから食文化ですとか農林水産業の6次産業化、そういったところも新しい農林水産業、1次産業の振興の形としては重要であろうと捉えているところがございます。また、温海地域ですと観光振興というところも重要だと捉えまして、特に高速道路の開通を機として集客を図っていく、そのあたりのところはこの実施計画の中でも重く取り上げて位置付けています。その他近々の雇用対策ということにつきましては、15ページのところにありますけれども、現下の情勢を踏まえて緊急経済雇用対策を推進する、このあたりについて雇用の観点で取組みをまとめているというところがございますのでご参照いただきたいと思います。

○**五十嵐幸男委員** ありがとうございます。温海地域で特に期待したいところは、面積の90%が山、山林なので、この山を利用した具体的な計画などが出てくるといいなと期待しておりますのでこれからもご検討願えればありがたいと思います。

○**斎藤徹委員** 21ページの今年度からの新規事業で出ているわけですが、防災拠点、再生可能エネルギー等の導入、震災後この件については相当皆さん興味を持っていると思えますし、私自身も興味を持っているところがございますが、中心的な避難場所となる防災拠点施設に対して太陽光発電等の導入を推進するとなっておりますが、この当地域での対象はどのような形にな

っているのか説明いただきたいと思います。

○高坂企画調整課長 防災拠点の関係で挙げております事業につきましては環境省の予算でグリーンニューディール基金というものを活用して防災拠点を整備するという事業がございます。鶴岡市としましては現在どういうふうなところに整備をしていくかということを検討しております、25年から27年までの3ヵ年の中で逐次整備を進めていくということで検討しているところでございます。地域全体を見た場合に、地域的なバランスが重要ではないかということもありまして、総枠の予算との関係の中で、どのくらいの箇所数で、どのくらいの仕様のものが整備できるかという整理をしているところでございまして、温海地域も含めまして全体的な地域バランスも見ながら整備をしていくということで現在検討しているところでございます。

○斎藤徹委員 ご存知のようにこの地域は27集落が点在している地域でもございまして、拠点となる施設がどこになるのか、また、集落には大きい集落施設がありますし、その辺をより具体的に、お話を聞くと今定めるところを設定しているような状況でありますし、より具体的に早めの対応も必要なのかなと感じているところです。

○高坂企画調整課長 補足ですけれども、こちらに記載しておりますグリーンニューディールという資金を使った整備ということになりますけれども、市の防災拠点の整備ということでのエネルギー確保について防災安全課のほうで別途検討している状況にもあります。両方連携しながら避難施設等における必要とするエネルギーの確保という観点での検討を行っているところでございますので、この記載以外のところでも全般的に計画しているという状況もお伝えしておきたいと思います。

○橋本忠志委員 福祉の問題ですけれども、皆さんご承知のとおり私どもの地域では福祉のまちということで福祉に関しては住民からいろいろな期待がかけられている地域です。昨今福祉サービスを利用する方々の要望ですけれども、施設については皆様ご承知のとおりあつみ福祉会で提供しておりますし、鶴岡市社会福祉協議会でもやっています。行政でも、民間でもやっています、ということでサービスを提供する施設は需要の関係で増えておりますけれども、限られたサービスを受けられる方々にとって、情報不足なのか、あるいは遠慮することもあるかと思えます。今後このように隠れた、そういう施設を利用したい、楽しみたいとか、介護予防に利用したい方々の引上げというか、民生委員の方もいらっしゃいますけれども、そういう情報を提供するように力を入れる方策はないものかと常々考えております。サービスを受ける方々が市場原理の中で取り合いになる、そういう状況もありますので、この辺を市の行政なりで包括的に要望を汲み取るような行政をお願いしたいと思っているところでございます。

○高坂企画調整課長 具体的には高齢者の方を対象にした福祉の部分という理解でよろしいで

しょうか。

○橋本忠志委員 私の質問が抽象的ですが、そういった施設、私の知っている山形でもそうですが、当地域でも徳州会もありますし、デイサービスを受ける方々について、最近介護サービスに関する勧誘が多く選ぶほうが難しいということで、自分の介護度、自分の生活をどう把握するかということで、そういう施設に入るための情報が不足ではないかと思っておりますので、その辺を今後ご指導いただければということです。あくまでも要望です。

○高坂企画調整課長 温海庁舎の市民福祉課長からも話を伺いながら、本所では長寿介護課が担当になりますので、そちらとも連携を取りながら適切な対応をしてみたいと思います。

○本間加知子委員 空き店舗対策の推進についてですが、あつみ温泉にもかなりの空き店舗があります。温泉に来られた方が時間があって街の中を歩くわけですけれども、どこかに寄って何かを見るといところが不足していると思います。温海地区には美術館とかの施設が少ないということがありますので、空き店舗を利用してあつみ温泉の歴史的な資料を置いたり、昔の温泉街のパネルの展示をして誘客を図るなど、温泉に来たお客さんが少しでも時間つぶしというものも変ですけれども、そぞろ歩きしてちょっと足を止めて見られる場所というのも良いと思いますけれどもどうでしょうか。

○粕谷観光商工主幹 あつみ温泉の空き店舗対策については従来から取り組んではおりますけれども、なかなか実現に至らなかったという経過があります。そういった状況の中で今年度商工会、湯けむり女子会の皆さんが主体的に、体験工房「遊ったりや」という施設を開いていただいて大変うれしく思っています。今後とも今出された要望、意見を参考にしながら地元の方々、産業団体、観光団体とも相談しながら前向きに取り組んでいきたいと考えておりますのでよろしくをお願いします。

○本間百子委員 子宮がん検診は毎年補助を受けてできるのですが、乳がん検診はある年齢にならないと受けられないので毎年受けることができません。乳がん検診も毎年受けることはできないものでしょうか。

○富樫市民福祉課長 その件については現在資料を持ち合わせておりませんので、後ほど調べて報告させていただきます。

○奥井厚会長 その他ございませぬか。膨大な資料による説明でありましたが、質問票も配布されておりますので、後ほど気づいた点やお聞きしたい点がありましたら提出いただければありがたいと思います。

限られた時間でもありますので、ここで総合計画実施計画についての報告については終わり

にさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

○**企画調整課佐藤主査** お配りしてあります意見書につきましては、言い切れなかった点などありましたら来週の月曜日を目処にFAX等でいただければと思いますのでよろしくお願いします。

○**奥井厚会長** そのようなことで、皆さんから後ほどでも結構ですのでご質問、ご意見をお願いしたいと思います。

－ 企画調整課職員退席 －

○**奥井厚会長** 次に（２）として、鶴岡市コミュニティ基本方針について事務局から説明をお願いします。

－ 資料説明：鶴岡市コミュニティ基本計画の策定について －
説明者：市民部次長兼コミュニティ推進課長 門崎秀夫
コミュニティ推進課主査 清野健

○**奥井厚会長** ただいま事務局から鶴岡市コミュニティ基本方針の策定について説明がありました。初めての方もいるかと思います。コミュニティという横文字が馴染まなくて、温海地域の自治会の場合は横文字が使われておりません。従ってその辺の整合性と、今まとめられている意見について皆さんからご意見をいただきたいと思います。

○**五十嵐幸男委員** 地域活動センター構想についてお伺いしますが、地域活動センターというのは温海地区でいえば地区公民館単位に設置されるとお聞きしたのですが、その地域活動センターの活動組織としてどのような地域住民の意見を聞くような場といたしますか、従来であれば地区公民館の運営委員会、公民館運営審議会があって、住民代表が出席していろんな意見を聞いたり、要望を申し上げたりする場があったのですが、そういった組織が地域活動センターの中に計画されているのかどうか、そういうことを分かれば教えていただきたいと思います。

○**門崎市民部次長兼コミュニティ推進課長** 地域活動センターについてのご質問でありました。ここで申し上げているコミュニティ化というのは、一般論で申し上げますと単位自治組織、温海地域で申し上げますと27の自治会からなっていますけれども、27自治会の内10、4割近くが50世帯以下の自治会になっております。30世帯以下も6、2割になっている。全市で見ても50世帯未満の単位自治組織の割合が半数を占めているというところであります。これからますます人口減少、高齢化が進む中で単位自治組織の活動をしっかり守っていかなければならないわけですが、その機能を補完するといえますか、そういう自治組織の育成が

必要ではないかということで提案させていただいているところでありまして、鶴岡地域では21の小学校区単位で自治組織を設立させていただいておりまして、その活動拠点としてコミュニティセンターを設置して、施設の指定管理をしていただくとともに、生涯学習事業、地域づくり事業に取り組んでいただいているところでもあります。現在の地区公民館についても6地域で設置形態の違いがございます。鶴岡地域は地区公民館がございません。中央公民館1つでありますし、これから当面コミュニティ化を進めようとしている藤島、羽黒、朝日地域ですと、藤島は旧町村単位に5つの地区公民館があります。地区公民館の運営組織、分館運営協議会と自治会の会長さんの集まりもあります。そういうところで運営しているわけですが、社会教育施設である地区公民館といいますと利用の形態等についても制約等がございますもので、生涯学習事業のみならず、これからの防災とか地区・地区により密接につながるような活動を進めていただくうえで地区公民館を仮称であります地域活動センター化にして、それを母体にして運営をする単位自治組織を越えた広域的な住民自治組織を作っていきたいという考え方です。

○伊藤支所長 実はこの地区公民館のあり方についてどうするかという部分については、温海の場合施設がないわけです。自治公民館併置の中でこれまで地区事業を展開してまいりました。その部分について11月5日の自治会長会の席上でも説明しましたが、今後温海地域の公民館運営審議会が12月中旬、2月の下旬から3月の中旬にかけて2回予定されております。その中で温海地域の地区公民館のあり方、それについての検討をする予定であります。なおかつ冬期間になりますと地区ごとに役職員研修がありますのでそこに投げかけていながら、地区公民館のあり方がどうあるべきか、地域活動センターという名称を全市的に使っていますけれども、温海として、例えば従来行ってきた地区事業をどう振り分けていくのか、どのように残していくのかその辺を皆さんと検討していきたいと考えております。

○五十嵐幸男委員 簡単に考えれば従来の地区公民館イコール地域活動センターというようなイメージで良いですね。

○斎藤徹委員 私地域コミュニティの委員になっているものですからここで伺ってよいものかどうかと思いますが、先般の会議の中で聞けなかった点をお聞きしておきたいと思いますが、18ページの地区担当職員の導入にあたってですが、この中で下から2番目、制度の導入にあたっては職員と関係者が取組みを通じて共にスキルアップできる枠組み作りを目指します、という部分があります。そういう中で私ども若い時代は職員の中でも指導主事の資格を取っている職員がおったわけですが、こういう施策を行う中で指導主事等、今東京のほうとかに行かなければならなくなって大分難しくなっているということですが、今後の方向性として職員の方がこのような資格を取ることがあるのかどうかお聞かせ願います。

○門崎市民部次長兼コミュニティ推進課長 職員のスキルアップというか、指導主事の資格など

を計画的にとっていく考えがあるかというご質問、ご意見だと思います。あり方検討委員会の委員長を務めておられる小沢先生からも金山町での取組みの事例紹介がありました。職員を公民館に配置した際に指導主事の資格を取っております中で、できるだけ多くの職員がそのようなスキルを身につけ活かしているということで、非常に大切なことだと思いますが、指導主事という資格のみならず市の職員、コミュニティセンターとか、地区公民館とか自治公民館等で携わっておられる職員の能力向上といいますか、お互いにスキルを高めることについての取組みは一番人材育成の中で重要と認識しているところでありまして、この地区担当職員制度の導入につきましては温海地域では先駆的に4年目を向かえる中で、懇談会方式という中で取り組んでいるわけでありまして、お互いに課題を掘り下げてといいますか、整理をする中で地域住民の皆さんと役所の職員の能力向上を図らせていただいていると認識しておりますので、そういう資格云々に関わらずに取り組んでまいりたいと考えておりますのでよろしくお願ひします。

○**斎藤徹委員** ありがとうございます。ただ私が思っているのは、市町村合併後に職員交流が盛んに行われるようになり、他地域出身の職員が新たな情報を持ち込む中で温海の活性化が図られていることは歓迎すべきことだと思いますが、一方で、温海地域出身の職員が減少していることも事実であり、地域住民との連携を密にするためにも地域の実情に精通した職員の配置にも配慮いただければありがたいと思います。

○**奥井厚会長** その他皆さんからございませぬか。五十嵐幸男委員どうぞ。

○**五十嵐幸男委員** 地域活動センターの構想ですけれども、行政のほうでもいろいろ保健活動とかで地区担当があるようです。そのほかに社会教育関係では地区公民館組織がある。教育部門と行政部門でいろいろ地区担当に分かれている分野もあるし、そうでないものもあるようですが、そうしたものを今後包括して地域活動センターというような組織作りに進めていくのかどうか、単なる自治活動だけの地域活動センターになるのかどうか、その辺のイメージはどう考えたらいいのでしょうか。

○**門崎市民部次長兼コミュニティ推進課長** 行政サイドのほうでも、縦割りの別れての対応しているところはどうかという質問だと思いますが。

○**五十嵐幸男委員** 例えば保健師さんの担当は地区ごとになっている訳ですが。

○**門崎市民部次長兼コミュニティ推進課長** 鶴岡市の保健師は担当地区制度をとっていますけれども。

○**五十嵐幸男委員** その他に教育というか公民館主事とかいるのですか。

○**門崎市民部次長兼コミュニティ推進課長** それぞれの地域で違いますけれども、鶴岡地域でもコミュニティ推進課の職員を21のコミセンに担当を定め、スポーツ課も同様にコミセンごとに担当者を定めています。どこまで地域とのつながりを持って活動できているかということはあるわけですが、実際地域での活動拠点として運営する組織体を作られるとすれば行政の支援についても横断的に対応させていただきたいと考えています。

○**五十嵐幸男委員** そのような行政部門と教育部門、福祉部門等々あるわけですが、いろいろ検討されて、どういう姿の地域活動センターにしたらより住民に近い組織活動が出来るか検討していただきたいと思います。

○**奥井厚会長** 五十嵐委員今の説明でよろしいですか。

○**五十嵐幸男委員** 要するに、行政部門の地区担当、教育部門の地区担当があるわけです。そういうものをどのようなイメージでこの地域活動センターの中に含まれてくるのか。最近行政も複雑になって、その他にも福祉活動の地域活動とかいろいろな地域活動があるわけで、その中で地域活動センターというイメージ作りをどのように考えているのか疑問に思ったところです。そのようなことを考慮していただければ良いと思います。

○**奥井厚会長** 温海の場合は自治公民館組織も社教からの様々な指導が入ってきますので、その辺との整合性はまだ分からないところです。今話があったように一緒になっているところもあるので、支所長から先程話があった中身を次回検討していくという話でいいと思いますけれどもよろしいですか。

その他ご意見ございませんか。

○**本間満委員** コミュニティの説明を聞きまして、様々な優秀な方々が会議をされて作成されたものと思いますが、今各種補助金の問題、それから老人が増えてきているという中で、地域、各自治会ですけれども、消防も今団員の確保がままならなくなり、地域の防災、地域を守るには地域の消防団員がいなくなっているという実態が今出てきているわけです。地域の負担、消防の経費というものが、旧温海町時代から見えてきていますが、各集落が70万円とか60万円とか、そういった予算で消防に対応している。その中で都市である鶴岡市内であれば広域消防があり、経費が余りかからないと思います。そういう意味で災害を未然に防ぐということと、老人の様々なことを守るということをきちんとしていかなければ集落が守られていないわけですので、そのために余りにも地域に負担がかかるのです。小岩川であれば、総予算の10%が消防費になっているようですが、老人が増えて集落費を集めるにしても等外とか、普通に集金ができない、資金を集めるには大変な状況になってきています。そのために地域の役員も大変苦勞しています。補助金の問題も含めて、地域による差をなくするためにも、市のほうでももっとこ入れしていかないと行事もできない事態になっていくので

はないか、老人が増えて、職場はみんな市街地に行ってしまいます、そういう中で、地域の役員の報酬だけではなく、集落費を1件で4万も5万も出しているわけです。その中で、下水を自分たちで直したり、林道を直したりしている状態でありますので、そういった点も含めて地域にもっと目を向けていただきたいという要望です。

○**門崎市民部次長兼コミュニティ推進課長** 委員からお話がありましたとおり、鶴岡地域でも、中山間地域、過疎地域のみならず、市街地の中でも空き家状態といいますか、過疎化が進んでいて単位自治組織、単位での活動を維持していくのが困難なところも出ております。10世帯未満のところもありますし、その中でこのコミュニティの基本方針を取りまとめております。その中でそれぞれの自治組織、隣組から単位町内会からその上のコミュニティまでそれぞれ連携をして、行政と役割分担を果たす中で順々につながるような行政支援策についても検討を進めてまいりたいと考えております。行政のほうでも財政状況等厳しい面もありますけれどもそれも含めてお互いに話し合いをして検討を進めてまいりたいと思っています。よろしく願います。

○**五十嵐幸男委員** 今本間委員からもお話があったようですが、自治会費の問題、かなり集落ごとにたくさんあるわけです。その中でここに書いてあります総合交付金というものがどういう積算内容で出てくるのか非常に期待しているのですけれども、大体どのような構想であるのか今お分かりになるようであれば、構想だけでも良いですけれどもお話聞かせていただければと思います。

○**門崎市民部次長兼コミュニティ推進課長** この基本方針の策定を受けて平成26年度までにこの単位自治組織に対する各種補助金等の総合交付金化ということですが、この枠組み、基準を具体的に決めていきたいと思っています。現在の6地域を見ますと単位自治組織の会長さんが非常勤特別職であるかないかという違いがあります。鶴岡と温海地域においては非常勤特別職制度は見直しております。そうしますとその他4地域は個人の会長さんに報酬という形で行政支援がなされております。特別職を置いていないところだと町内会等の組織に運営補助金を出したりしておりますので、あるいは先程話にありましたが防犯灯の電気料補助という形であったり、その他単位自治組織に対して行政のほうから出されている各種補助金等について一定の整理をして統一的なあり方にしていきたいと考えております。算定に当たりまして温海地区は総合化になっている訳ですけれども、いわゆる行政事務についても担っていただくというものもありますので、そういうものについては別基準で算定していくものがあるかと思えます。例えば防犯灯の関係などですと単に世帯割ではなく設置基数なども基本的にはありますので、そういう実態も配慮しなくてはならないのかなと、それからより地域ごとに取り組みする課題とか実情が違いますのでそういう活動を支援するようなメニュー補助といいますか実際取組みを支援するようなものを構成していきたいと事務局段階では考えております。

○五十嵐幸男委員 分かりました。

○奥井厚会長 その他なければ報告を終わらせていただきたいと思いますがいかがでしょう。
それでは後の分散会もありますので、資料と併せて説明をお願いします。

－ 資料説明：分散会の進め方について－
説明者：五十嵐総務地域振興主査

○奥井厚会長 ただいまの分散会の説明について質問があればお願いします。
ないようですので、午後4時終了を目処に分散会に入りたいと思います。

－ 分 散 会 －